

国土交通省緊急災害対策本部会議（第31回）議事概要

日 時：平成23年3月31日 18時00分～

場 所：国土交通省防災センター

○出席者

国土交通省訓令第8号に基づく構成員

（本部長代行）副大臣及び大臣政務官以下、（副本部長）事務次官、技監、国土交通審議官、（本部員）官房長、関係審議官ほか関係部局長（※代理者の場合あり）

関係する審議官等

○議事概要

（1）被害状況と対応等について

- ・ 各局等から配付資料にて被害の状況と対応方針等を報告。

<池口副大臣からの発言概要>

- ・ 原発は一進一退の状況。それ以外のことは予想外のことを避けられる段階にきた。
- ・ 会議の開催頻度について、余程の変化がない限り次の週末から、土日については本部会議を行わない。

<三井副大臣からの発言概要>

- ・ 初動については、いい対応をしてくれた。
- ・ 今後、復旧・復興に向けて、一丸となって対応を。
- ・ 石油や排水、会社再建、廃車手続き、風評被害等、いろいろ問題があると認識。

（2）その他

- ・ 次回緊急災害対策本部会議開催について

国土交通省緊急災害対策本部会議（第32回）議事概要

日 時：平成23年4月1日 18時00分～

場 所：国土交通省防災センター

○出席者

国土交通省訓令第8号に基づく構成員

（本部長）大畠大臣以下、（本部長代行）副大臣及び大臣政務官、（副本部長）事務次官、技監、国土交通審議官、（本部員）官房長、関係審議官ほか関係部局長（※代理者の場合あり）

関係する審議官等

○議事概要

（1）被害状況と対応等について

- ・ 各局等から配付資料にて被害の状況と対応方針等を報告。

<大臣からの発言概要>

- ・ 民間企業のがれき処理が課題。
- ・ 合併特例債で建てた施設の再建に対し、二重ローンが課題。
- ・ ガソリン不足。隣町に遺体安置所があるが確認にも行けないという声もある。
- ・ 落橋等で鉄道が壊滅状態であるため、三陸縦貫道等の道路の復旧を。
- ・ 民地のがれき処理が問題。重機が不足。
- ・ 仮設住宅の建設は、当初、2ヶ月で3万戸としているが、3万戸では足りないので、さらに3ヶ月で3万戸を供給することで検討を。
- ・ 地元の復興支援として、地元工務店の活用の検討を。
- ・ 資材の国内調達が無理なら、輸入で対応することも検討を。

<池口副大臣からの発言概要>

- ・ 原発周辺で、重機がリースできないとのこと。
- ・ 自宅が壊れていない原発避難住民は仮設住宅に入れないとのこと。
- ・ 宮城県では、民間も含め3万戸の住宅が必要。

（2）その他

- ・ 次回緊急災害対策本部会議開催について

国土交通省緊急災害対策本部会議（第33回）議事概要

日 時：平成23年4月4日 17時00分～

場 所：国土交通省防災センター

○出席者

国土交通省訓令第8号に基づく構成員

（本部長）大島大臣以下、（本部長代行）副大臣及び大臣政務官、（副本部長）事務次官、技監、国土交通審議官、（本部員）官房長、関係審議官ほか関係部局長（※代理者の場合あり）

関係する審議官等

○議事概要

（1）被害状況と対応等について

- ・ 各局等から配付資料にて被害の状況と対応方針等を報告。

<大臣からの発言概要>

- ・ がれきの撤去に力を入れてほしい。被災地域からの要請。
- ・ IATA（国際航空輸送協会）の「日本は、健康上、輸送上安全である」という情報は、世界各国に発信するよう要請を。
- ・ 自衛隊の遺体捜索に必要な湛水地域の排水に、国交省のポンプ車が活躍している。ポンプ車の増強要請がある。

（2）その他

- ・ 次回緊急災害対策本部会議開催について

国土交通省緊急災害対策本部会議（第34回）議事概要

日 時：平成23年4月5日 16時00分～

場 所：国土交通省防災センター

○出席者

国土交通省訓令第8号に基づく構成員

（本部長）大畠大臣以下、（本部長代行）副大臣及び大臣政務官、（副本部長）事務次官、技監、国土交通審議官、（本部員）官房長、関係審議官ほか関係部局長（※代理者の場合あり）

関係する審議官等

○議事概要

（1）現地報告

- ・ 東北地方整備局より現地の対応について報告。（テレビ会議）

＜大臣からの発言概要＞

- ・ 被災地に電話をしたが、どの市長からもまず感謝の言葉があった。
- ・ 陸前高田市へのガソリン不足対応に感謝。
- ・ 東北地整管内工事の一時中止命令における柔軟な対応方針はよい。
- ・ 本日、住宅生産団体連合会にこれまでのものも含め仮設住宅6万戸の供給を要請した。「資材の調達は任せて欲しい。ただ、用地の確保をお願いする」とのこと。用地確保に国交省としても協力したい。国有地、工業団地、農地など、必要があれば関係機関にも用地の確保をお願いしたい。東北地整でも努力を。

（2）被害状況と対応等について

- ・ 各局等から配付資料にて被害の状況と対応方針等を報告。

＜大臣からの発言概要＞

- ・ 鉄道の復旧に関し、地域では、「不採算路線が廃線になれば、地域が見捨てられる」との懸念の声ある。JRとよく相談し、復興と合わせた復旧計画の検討を。
- ・ 地震と津波による避難者と原発事故による避難者への対応は、根本的に違うので、分けて考える必要がある。国交省としてどのような対応をとるべきか、事務次官を中心に検討を。
- ・ 被災地域の復旧・復興工事において、地域の雇用と産業をどのように

位置づけていくのか、復興の大事な要素である。各局でも検討を。

- ・ 被災した観光地を訪れることは不謹慎との考えもあるが、観光地を訪ねることが復興につながるとも考えられるので、被災地の観光振興も打ち出してはどうか。事務次官を中心に検討を。

(3) その他

- ・ 次回緊急災害対策本部会議開催について

国土交通省緊急災害対策本部会議（第35回）議事概要

日 時：平成23年4月6日 16時00分～

場 所：国土交通省防災センター

○出席者

国土交通省訓令第8号に基づく構成員

（本部長）大畠大臣以下、（本部長代行）副大臣及び大臣政務官、（副本部長）事務次官、技監、国土交通審議官、（本部員）官房長、関係審議官ほか関係部局長（※代理者の場合あり）

関係する審議官等

○議事概要

（1）被害状況と対応等について

- ・ 各局等から配付資料にて被害の状況と対応方針等を報告。

＜大臣からの発言概要＞

- ・ 経済がガタガタの原因の一つとして電力不足がある。火力発電所がある港に、石炭を積んだ船が入れるように、復旧を進めてほしい。具体的には小名浜港の名前があがっていたが、どのように石炭を運ぶのか、検討と対策を。
- ・ 報道によれば、陸前高田市では「ガソリン不足で遺体安置所へも行けない」とのこと。ガソリンの配送について配慮を。

（2）その他

- ・ 次回緊急災害対策本部会議開催について

国土交通省緊急災害対策本部会議（第36回）議事概要

日 時：平成23年4月7日 16時00分～

場 所：国土交通省防災センター

○出席者

国土交通省訓令第8号に基づく構成員

（本部長）大畠大臣以下、（本部長代行）副大臣及び大臣政務官、（副本部長）事務次官、技監、国土交通審議官、（本部員）官房長、関係審議官ほか関係部局長（※代理者の場合あり）

関係する審議官等

○議事概要

（1）被害状況と対応等について

- ・ 各局等から配付資料にて被害の状況と対応方針等を報告。

<大臣からの発言概要>

- ・ 火力発電所を立ち上げるため、石炭やLNG輸送タンカーが接岸できるよう、港湾整備に努力を。
- ・ ボランティア活動に高速料金が足かせになっている。ボランティアの負担が軽くなるよう是非、工夫を。

（2）その他

- ・ 次回緊急災害対策本部会議開催について

国土交通省緊急災害対策本部会議（第37回）議事概要

日 時：平成23年4月8日 16時00分～

場 所：国土交通省防災センター

○出席者

国土交通省訓令第8号に基づく構成員

（本部長）大島大臣以下、（本部長代行）副大臣及び大臣政務官、（副本部長）事務次官、技監、国土交通審議官、（本部員）官房長、関係審議官ほか関係部局長（※代理者の場合あり）

関係する審議官等

○議事概要

（1）現地報告

- ・ 東北地方整備局より現地の対応について報告。（テレビ会議）
- ・ 東北運輸局より現地の対応について報告。（電話報告）

<大臣からの発言概要>

- ・ 災害対応では安全確認の配慮を。
- ・ 東北運輸局もTV会議が出来るように。

（2）被害状況と対応等について

- ・ 各局等から配付資料にて被害の状況と対応方針等を報告。

<大臣からの発言概要>

- ・ 電力不足が経済に大きな影響を与える。国交省としても、発電所に対する燃料輸送経路の確保に努めること。
- ・ 仮設住宅の完成戸数については、このところ低位安定になっている。これから伸びることを期待。

（3）その他

- ・ 次回緊急災害対策本部会議開催について

国土交通省緊急災害対策本部会議（第38回）議事概要

日 時：平成23年4月11日 16時00分～

場 所：国土交通省防災センター

○出席者

国土交通省訓令第8号に基づく構成員

（本部長）大畠大臣以下、（本部長代行）副大臣及び大臣政務官、（副本部長）事務次官、技監、国土交通審議官、（本部員）官房長、関係審議官ほか関係部局長（※代理者の場合あり）

関係する審議官等

○議事概要

（1）被害状況と対応等について

- ・ 各局等から配付資料にて被害の状況と対応方針等を報告。

＜大臣からの発言概要＞

- ・ 仮設住宅建設への尽力に感謝。各県で仮設住宅の用地の確保を進めており、2万6千戸分の見通しがついている。進捗状況のグラフを資料に追加すること。
- ・ がれき処理の問題は、現在の制度の中でどうすれば処理が進むのか、さらに今一步、則を越えて進めてほしい。そのために特別法が必要ならそれも考えたい。

（2）その他

- ・ 次回緊急災害対策本部会議開催について

国土交通省緊急災害対策本部会議（第39回）議事概要

日 時：平成23年4月14日 16時00分～

場 所：国土交通省防災センター

○出席者

国土交通省訓令第8号に基づく構成員

（本部長）大畠大臣以下、（本部長代行）副大臣及び大臣政務官、（副本部長）事務次官、技監、国土交通審議官、（本部員）官房長、関係審議官ほか関係部局長（※代理者の場合あり）

関係する審議官等

○議事概要

（1）現地報告

- ・ 東北運輸局より現地の対応について報告。（テレビ会議）

<大臣からの発言概要>

- ・ 今回からTV会議になった（これまでは音声のみ）。元気な姿を見て安堵。被災した職員もあると聞いているが、これまでの尽力に感謝。
- ・ これまで、人命救助第一に、被災地への食料、水、燃料の供給を進めてきた。これからは、復旧、復興の流れを強めていく。
- ・ 被災地企業への金融支援が重要であると認識。

（2）被害状況と対応等について

- ・ 各局等から配付資料にて被害の状況と対応方針等を報告。

<大臣からの発言概要>

- ・ 東北線が4月21日に全線開通とのこと。明るい話題。
- ・ 参議院の小泉国土交通委員長が気象庁を視察された。日本の気象データの管理は素晴らしいとのこと。
- ・ 被災産地の応援キャンペーンについて感謝。
- ・ 各局の現場でも、事故が発生しないよう注意喚起を。

<津川政務官からの発言概要>

- ・ 福島第一原発20～30km圏は現在、屋内待避となっているが、今後、緊急時避難準備区域になる予定。圏内の現在の道路状況と解除時の道路状況について確認を。

- ・ 福島第一原発 20km 圏までは、入ることができるので、道路の補修が必要なら補修を。また、屋外作業指針に基づき、省としての作業方針を。指示が変わった場合の扱いについても同様。

<市村政務官からの発言概要>

- ・ これまで多くの自治体を視察。多くの自治体から国土交通省に対する感謝の言葉もらった。災害対応については、「自衛隊が1番だが、次は国土交通省だ」という言葉をいただいた。この信頼に応えるため、これからも努力を。

(3) その他

- ・ 次回緊急災害対策本部会議開催について

国土交通省緊急災害対策本部会議（第40回）議事概要

日 時：平成23年4月18日 16時00分～

場 所：国土交通省防災センター

○出席者

国土交通省訓令第8号に基づく構成員

（本部長）大畠大臣以下、（本部長代行）副大臣及び大臣政務官、（副本部長）事務次官、技監、国土交通審議官、（本部員）官房長、関係審議官ほか関係部局長（※代理者の場合あり）

関係する審議官等

○議事概要

（1）被害状況と対応等について

- ・ 各局等から配付資料にて被害の状況と対応方針等を報告。

<大臣からの発言概要>

- ・ 東京電力が原発事故の収束に向けたロードマップを公表した。福島第1及び福島第2原発警戒区域内の道路の補修計画を作成すること。
- ・ 仮設住宅を5月末までに3万戸完成すると国会で答弁した。被災3県と連携して、達成に向けた努力を。
- ・ 港湾の復旧では、企業側の再建計画に遅れをとることがないように。
- ・ 国土地理院は、被災自治体へ提供している浸水マップ等、非常に良いデータを保有している。さらにデータの活用方法の工夫を。
- ・ 東北の観光地を応援するため、パンフレットを作成すること。

<小泉政務官からの発言概要>

- ・ 仮設住宅の建設が進まない理由として、市町村ごとの仮設住宅数を平等にするために広い土地があったとしても数多く建てさせていないということがある。悪しき平等なので改善を。
- ・ また、阪神淡路の震災時は4m間隔で仮設住宅を建設していたが、「2m間隔で十分」と陸前高田市長は話していた。現場の条件に合わせて柔軟に。

（2）その他

- ・ 次回緊急災害対策本部会議開催について